

平成28年青森県花き生産状況

農産園芸課

1 概況

平成28年の本県花きの生産状況は、作付面積が120ヘクタール（前年比98%）で、前年に比べ3ヘクタールの減少、生産数量が2,452万本・鉢（同92%）で、前年に比べ約205万本・鉢の減少、産出額が18億8,600万円（同98%）で、前年に比べ約3,100万円の減少となった。また、栽培農家数は880戸（同95%）と、前年に比べ47戸減少した。

これらの要因として、生産者の高齢化や家族労働力の減少、輸入切り花の増加による価格低迷、花き消費の停滞などが影響したと考えられる。

表1 生産状況

（単位：ha、千本・鉢、百万円、戸、%）

年次 \ 項目	作付面積	生産数量	産出額	栽培戸数
28年	120	24,520	1,886	880
27年	123	26,566	1,917	927
28年/27年	98	92	98	95

【農産園芸課調べ】

2 作付面積

(1) 切花類

切花類の作付面積は約96ヘクタール（前年比102%）で、前年より約2ヘクタール増加した。

品目別では、キク類（大中輪ギク、小ギク、スプレーギク）が約21ヘクタールと最も多く、全体の17パーセントを占めた。次いで、サクラ（枝物）が約15ヘクタール、トルコギキョウ約9ヘクタール、ヒマワリ約4ヘクタール、バラ約3ヘクタールの順となった。

キク類、バラ、リンドウ、ストック等が減少したものの、サクラ、トルコギキョウ、ヒマワリ、アルストロメリア等が増加した。

(2) 鉢もの類

鉢もの類の作付面積は約10ヘクタール（同94%）で、前年より0.7ヘクタール減少した。

品目別では、シクラメンが約2ヘクタールで最も多く、次いでサクラソウ、ポットローズがそれぞれ約1ヘクタールとなった。

(3) 苗もの類

苗もの類の作付面積は約5ヘクタール(同94%)で、前年より0.3ヘクタール減少した。

表2 作付面積

(単位：a, %)

区別	年次		年次		28/27	
	28年	割合	27年	割合		
切花類	9,625	80	9,458	77	102	
主要品目	キク類	2,056	17	2,128	17	97
	サクラ(枝物)	1,455	12	1,209	10	120
	トルコギキョウ	929	8	844	7	110
	ヒマワリ	463	4	365	3	127
	バラ	265	2	270	2	98
	リンドウ	215	2	244	2	88
	アルストロメリア	182	2	175	1	104
	宿根カスミソウ	139	1	139	1	100
	カンパニュラ	133	1	120	1	111
	ストック	133	1	146	1	91
	ユリ類	123	1	147	1	84
	アスター	122	1	134	1	91
	カーネーション	111	1	111	1	100
	グラジオラス	98	1	87	1	113
	デルフィニウム	76	1	83	1	91
鉢もの類	1,048	9	1,118	9	94	
主要品目	シクラメン	198	2	200	2	99
	サクラソウ	104	1	99	1	105
	ポットローズ	100	1	131	1	76
苗もの類	547	5	579	5	94	
花木類	383	3	598	5	64	
芝類	400	3	400	3	100	
球根類	13	0.1	153	1	8	
合計	12,016	100	12,306	100	98	

【農産園芸課調べ】

■ : 重要品目及び地域振興品目

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

3 産出額

(1) 切花類

切花類の産出額は10億5,400万円(前年比102%)で、前年より1,800万円増加した。

品目別では、キク類(大中輪ギク、小ギク、スプレーギク)が3億1,700万円(同99%)と最も多く、全体の17パーセントを占めた。次いで、トルコギキョウが1億3,300万円(同111%)、アルストロメリアが1億2,300万円(同129%)、バラが1億400万円(同103%)、カンパニュラが3,100万円(同105%)、ヒマワリが2,600万円(同88%)の順となり、キク類、ヒマワリ等は減少したが、トルコギキョウ、アルストロメリア、バラ、カンパニュラ等は増加した。

(2) 鉢ものの類

鉢ものの類の産出額は5億3,300万円(同94%)で、前年より3,200万円減少した。

品目別では、ポットローズが1億5,600万円と最も多く、次いでシクラメンが6,000万円、サクラソウが3,800万円となった。

(3) 苗ものの類

苗ものの類の産出額は1億4,800万円(同92%)で、前年より1,300万円減少した。

表3 産出額

(単位：百万円，%)

区別	年次				28/27	
	28年	割合	27年	割合		
切花類	1,054	56	1,036	54	102	
主要品目	キク類	317	17	321	17	99
	トルコギキョウ	133	7	120	6	111
	アルストロメリア	123	7	95	6	129
	バラ	104	6	101	5	103
	カンパニュラ	31	2	29	2	105
	ヒマワリ	26	1	29	2	88
	ユリ類	24	1	27	1	90
	宿根カスミソウ	20	1	21	1	98
	ストック	10	1	12	1	85
	カーネーション	9	0.5	11	1	84
	チューリップ	7	0.4	12	1	58
	リンドウ	7	0.4	9	0.4	82
	アスター	6	0.3	11	1	53
	デルフィニウム	6	0.3	8	0.4	79
	サクラ	6	0.3	6	0.3	107
グラジオラス	4	0.2	5	0.3	75	
鉢ものの類	533	28	565	29	94	
主要品目	ポットローズ	156	8	191	10	82
	シクラメン	60	3	63	3	95
	サクラソウ	38	2	37	2	103
苗ものの類	148	8	161	8	92	
花木類	95	5	97	5	98	
芝類	55	3	55	3	100	
球根類	1	0.1	3	0.2	32	
合計	1,886	100	1,917	100	98	

【農産園芸課調べ】

：重要品目及び地域振興品目

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

4 地域別の生産状況

(1) 作付面積

平成28年の作付面積は、下北地域で前年と比較して増加、西北地域で横ばいとなったものの、他の地域では減少した。

地域別では、三八地域が約40ヘクタールで全体の33パーセントを占め、次いで中南地域が約36ヘクタール、東青地域が約22ヘクタール、西北地域が約18ヘクタール、上北地域が約5ヘクタール、下北地域が0.5ヘクタールとなった。

(2) 産出額

平成28年の産出額は、三八地域が6億1,900万円で最も多く、次いで中南地域が5億5,600万円、上北地域が3億5,300万円、西北地域が3億300万円となった。

なお、上北地域は、ポットローズ等の鉢ものの生産により作付面積は約5ヘクタールと少ないものの、産出額は多くなっている。

表4 地域別生産状況

(単位:a、%、百万円)

地域	作付面積					産出額			主な品目
	28年	割合	27年	割合	28/27	28年	27年	28/27	
東青	2,158	18	2,243	18	96	52	54	96	キク、トルコギキョウ、カーネーション、デルフィニウム、宿根スターチス
中南	3,573	30	3,615	29	99	556	571	97	アルストロメリア、トルコギキョウ、キク、バラ、サクラソウ
三八	3,957	33	4,057	33	98	619	634	98	キク、カンパニュラ、ユリ類、シクラメン、トルコギキョウ
西北	1,787	15	1,787	15	100	303	303	100	キク、トルコギキョウ、バラ、宿根カスミソウ、シクラメン
上北	491	4	562	5	87	353	352	100	ポットローズ、カランコエ、観葉植物、バラ、ポインセチア
下北	51	0.4	43	0.3	118	2.5	2.4	104	キク、アスター、トルコギキョウ
合計	12,016	100	12,306	100	98	1,886	1,917	98	

【農産園芸課調べ】

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

5 バケット出荷の状況

切花の鮮度保持のために近年主流となりつつあるバケット出荷は、県内のJA花き部会を中心に実施されており、年々増加している。

品目別では、カンパニュラはバケットによる出荷量が約60万本とほぼ全量で行われているほか、トルコギキョウは約22万本で18パーセント、バラは約18万本で16パーセント、カーネーションは約10万本で49パーセントなどとなっている。

表5 切花類のバケット出荷状況

(単位：a、千本、%)

品 目	施設・露地栽培計			
	作付面積	生産数量	バケット出荷量	バケット出荷率
カンパニュラ	133	602	601	99.7
トルコギキョウ	929	1,202	219	18.2
バ ラ	265	1,117	177	15.8
カーネーション	111	199	98	49.1
ヒマワリ	463	620	45	7.2
デルフィニウム	76	66	20	30.5
その他	375	585	75	12.9
合 計	2,352	4,390	1,234	28.1

【農産園芸課調べ】

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。

6 JAの花き生産の状況（全農あおもり取扱状況）

(1) 花き取扱状況

JA全農あおもりの平成28年花き取扱量（県内JAの全取扱数量）は、約803万本（前年比90%）となり、前年より92万本の減少となった。

また販売額は6億300万円（同91%）となった。

(2) 販売額割合

JA全農あおもりの県内花き産出額に占める販売額のシェアは32パーセントとなり、前年より3ポイント低下した。

表6 JA全農あおもりの取扱状況

(単位：千本、百万円、円、%)

項目 年次	農協数	数量	販売額	単価	シェア
28年	10	8,031	603	75	32
27年	10	8,952	663	74	35
28年/27年		90	91	101	92

【JA全農あおもり調べ】

(注) シェア：(JA全農あおもり販売額÷県産出額)×100

(注) 数値は小数点以下を四捨五入しているため、各数値の合計値と合計欄の値が一致しない場合がある。